

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1 市民会館・公民館施設・設備概要

会館は、基本的には多様な文化諸活動に対応しつつ（市民会館）教育機関としての公民館の機能を果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07 m^2 建設延床面積 6,771.253 m^2

鉄筋コンクリート造り、地下1階、地上3階の構造で、

その施設、設備、職員、機能を通じ、

- (1) 市民の出あいの場（ひろば）
- (2) 集団活動のよりどころ
- (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
- (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造の場（劇場、音楽堂）

の役割を果たしている。

2 市民会館・公民館利用状況

利用件数

施設名 区 分 月別			53年 4			5			6			7			8			9			10			11			12			54年 1			2			3			合 計		
			有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数			
市 民 会 館	ホ ー ル	大ホール	21	0	21	38	0	38	40	0	40	40	0	40	11	0	11	32	0	32	26	0	26	38	0	38	10	0	10	20	0	20	25	0	25	41	0	41	342	0	342
		小ホール	19	0	19	20	0	20	21	0	21	41	0	41	26	0	26	17	0	17	17	0	17	29	0	29	15	0	15	1	0	1	18	0	18	23	0	23	247	0	247
		計	40	0	40	58	0	58	61	0	61	81	0	81	37	0	37	49	0	49	43	0	43	67	0	67	25	0	25	21	0	21	43	0	43	64	0	64	589	0	589
	リハーサル室		10	7	17	18	6	24	8	5	13	12	0	12	3	0	3	0	7	7	3	4	7	4	9	13	2	1	3	3	2	5	8	0	8	11	0	11	82	41	123
	第1集会室		8	20	28	5	17	22	3	18	21	8	23	31	17	17	34	7	30	37	7	26	33	5	31	36	2	24	26	5	11	16	10	23	33	6	34	40	83	274	357
	2 "		6	25	31	9	23	32	3	40	43	8	39	47	9	30	39	5	41	46	9	39	48	5	52	57	5	31	36	2	26	28	8	30	38	9	42	51	78	418	496
	3 "		6	25	31	12	23	35	15	24	39	15	28	43	12	34	46	6	47	53	9	35	44	16	37	53	10	27	37	10	18	28	13	24	37	18	31	49	142	353	495
	4 "		4	13	17	10	14	24	8	18	26	9	25	34	10	24	34	3	29	32	7	23	30	16	31	47	11	17	28	10	15	25	10	14	24	12	24	36	110	247	357
	5 "		12	24	36	17	15	32	8	22	30	10	26	36	16	24	40	12	24	36	18	14	32	12	33	45	6	13	19	8	17	25	16	15	31	8	14	22	143	241	384
	6 "		9	11	20	17	8	25	12	12	24	11	16	27	9	14	23	6	33	39	10	27	37	12	31	43	10	6	16	11	13	24	9	15	24	15	12	27	131	198	329
	7 "		12	5	17	17	5	22	16	7	23	13	8	21	16	13	29	11	24	35	14	21	35	13	24	37	12	4	16	15	11	26	12	12	24	18	11	29	169	145	314
	8 "		10	12	22	12	11	23	9	12	21	15	15	30	9	5	14	9	13	22	13	6	19	11	32	43	6	14	20	9	12	21	13	13	26	16	14	30	132	159	291
	展 示 室		0	6	6	0	30	30	0	0	0	0	6	6	0	0	0	12	15	27	0	9	9	0	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	33	12	114	126
	計		77	148	225	117	152	269	82	158	240	101	186	287	101	161	262	71	263	334	90	204	294	94	295	389	64	137	201	73	125	198	99	146	245	113	215	328	1082	2190	3272
公 民 館	調 理 室		0	4	4	0	3	3	0	3	3	0	10	10	3	13	16	0	9	9	0	6	6	0	19	19	1	17	18	0	10	10	3	13	16	2	13	15	9	120	129
	美 術 室		0	8	8	0	16	16	0	8	8	0	26	26	3	13	16	0	30	30	0	30	30	0	26	26	0	44	44	0	14	14	0	21	21	0	29	29	3	265	268
	音 楽 室		3	34	37	3	33	36	5	36	41	4	33	37	4	27	31	7	45	52	8	39	47	4	44	48	8	25	33	0	30	30	4	28	32	0	29	29	50	403	453
	視 聴 覚 室		0	32	32	0	29	29	1	28	29	0	30	30	0	18	18	0	38	38	0	33	33	0	42	42	0	28	28	0	25	25	1	24	25	1	27	28	3	354	357
	児 童 室		0	17	17	1	13	14	1	20	21	0	20	20	0	9	9	2	24	26	1	23	24	0	18	18	1	15	16	2	17	19	0	21	21	2	18	20	10	215	225
	計		3	95	98	4	94	98	7	95	102	4	119	123	10	80	90	9	146	155	9	131	140	4	149	153	10	129	139	2	96	98	8	107	115	5	116	121	75	1357	1432
合 計			120	243	363	179	246	425	150	253	403	186	305	491	148	241	389	129	409	538	142	335	477	165	444	609	99	266	365	96	221	317	150	253	403	182	331	513	1746	3547	5293

3 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体・グループ・サークル 個人の相談に応じ、必要な助言、指導、援助等に職員、講師助言者等の派遣紹介を行った。 年間延回数 155回

なお、公民館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これらの市民の活動の相談により、必要な援助をするため、館職員が1名残る体制をとっている。(午後5時から10時まで)

(2) 教材、教具等の利用

教材、教具の利用実績

社会教育備品貸出件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
16ミリ映写機	3	6	8	12	6	6	9	9	5	2	6	10	82
8ミリ映写機	1	1	4	3	3	2		1					15
8ミリカメラ				2									2
スライド映写機		1	2	5		4	2	1	2	1		2	20
O. H. P.				6					6		2	4	18
テープレコーダー		2	1	2		2	2	1			2		12
暗幕	1	1	2	2	4	3	3	1	3	3	2	5	30
スクリーン		2	3	5	2	4	2	4	2	1	2	5	32
16ミリフィルム			4		2		2	2					10
スポットライト				3	1			1	1	1		1	8
テント				3									3
計	5	13	24	43	18	21	20	20	19	8	14	27	232

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
配送件数	0	2	1	4	2	3	3	4	1	2	3	8	33
配送本数	0	3	4	9	8	6	8	9	3	4	7	20	81

(3) 事務援助

印刷事務等、連絡協議会的団体

(4) 会場借上

大ホール1回(吹奏楽)

小ホール3回(市民コーラス、吹奏楽アンサンブル2回)

4 主催事業

(1) 少 年

わんぱく教室

子ども会リーダー研修会として実施したもの。子どもたちの手で統一したテーマにとりくんで行く。その過程で集団形成、会議のもち方、ゲームの指導、企画から実施までの過程を学ぶ。

期 間 6月24日 午後1時30分から3時30分迄 全13回

参 加 者 430人

月 日	テ ー マ	内 容
6. 24	班分け ゲームを覚えよう	班編成 ゲーム指導
7. 1	〃	ゲーム班の旗のデザインを考える
8	班旗を作ろう	ゲーム班の旗作成
15	お祭りの企画 ゲーム	集団ゲーム お祭りの企画(話しあい)
24	〃	静かなゲーム 〃
27	お祭りの企画	話しあい
29	おみこしの企画	班毎にみこし作り 図面を作る
30	〃	〃
31	お祭り全体の企画	当日のスケジュール 出しもの等について
8. 5	キャンプ実習準備	キャンプ実習のためのプログラム作成
12	〃	〃
14	〃	うどん作り 当日のプログラムしおり作成
19. 20	川井キャンプ場	キャンプ実習

夏休み子ども教室

子どもの生活する力、手労働、労働体験等を中心に考えた講座である。

子ども料理教室

期 間 7月27日 午前10時から2時まで 全5回

参 加 者 210人

月 日	内 容	講 師
7. 27	カレーライス	貫 井 恵美子 若 林 伸 江
8. 3	手打ちうどん	” ”
8. 10	クッキーとパン	” ”
8. 17	茶まんじゅう	” ”
8. 24	ケ ー キ	” ”

子ども陶芸教室

粘土を通して創る喜びをあげよう

期 間 7月31日 午後1時30分から3時30分迄 全5回

参 加 者 90人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 31	ねん土で形を創ろう	粘土で自分の好きな作品を作る	担 当 職 員
8. 7	”	”	”
8. 14	素焼・色づけ	彩色、素焼した作品に自分の色をぬる	”
8. 21	本焼	焼物がどうやってやけるかをみんなでみよう	”
8. 27	縄文土器を作ろう	昔の人はどんな方法で焼物を作ったか	塩 野 半十郎

子どもたんけん教室

子どもたちが自らの手で、地域をさぐり、その歴史、地理を聞き書を通して考える。

期 間 7月28日 午後2時から4時迄 全5回

参 加 者 100人

7. 28	オリエンテーション 作文（何をしらべたいか）	担 当 職 員
8. 4	班分け 調査項目の設定	”
11	調査項目作成	”
18	野外調査（聞き取り）	”
25	” ま と め	”

子ども自然教室

地域の自然を自分たちの手で調査し、自然保護に関する初歩の科学的方法、認識を身につけるために開催する教室。今年で6年目

期 間 7月26日 午前10時から12時まで 全8回

参 加 者 280人

月 日	テ マ	内 容	講 師
7. 26	オリエンテーション グループ分け		担 当 職 員
8. 2	植物のしらべ方	多摩川の草をしらべる	宮 岡 一 雄
9	昆虫のしらべ方、みかた	昆虫の生活史	栗 原 仁
16	公園の木をしらべよう	二つの公園をくらべてみる 樹木をしらべる	宮 岡 一 雄
19	多摩川をしらべよう	多摩川における一日のサイクルを自然を通して調べる	宮 岡 一 雄 栗 原 仁 田 中 和 明
20	”		
23	まとめを作ろう	調査記録のまとめ	担 当 職 員
16～31日まで みどりの地図を作ろう			”

冬の子ども教室（料理）

冬休み期間に、料理を作ることを通して子どもたちに労働と生活にかかわる体験を持たせる。

期 間 12月8日 午後1時30分から4時迄 全3回

参 加 者 75人

月 日	テ - マ	内 容	講 師
12. 8	グラタン作り	班 編 成 グラタン作り ハン バーグ作り ケーキ作り	貫 井 恵美子 担 当 職 員
16	ハンバーグ作り		
23	ケーキ作り		

春休み子ども教室（ぬいぐるみ）

子どもたちの手労働と創造性の問題をぬいぐるみという素材を通して考える教室 異年令集団の中に共に作る喜びを知り創造性を身につける。

期 間 3月24日 午後1時30分から4時まで 全5回

参 加 者 75人

月 日	内 容	講 師
3. 24	オリエンテーション	担 当 職 員
25	マスコット人形（ねずみ ペンギン）	”
26	” （ねこ あかちゃん）	”
28	軍手ねこ	”
31	母うさぎ	”

冬の自然観察会

期 間 1月28日 午前8時から12時迄 全5回

参 加 者 160人

月 日	テ - マ	内 容	講 師
1. 28	多摩川の小鳥たち	多摩川の野鳥	岡田紀夫 栗原 仁
2. 4	林 の 鳥	玉川上水の野鳥 林での野鳥	”
11	水辺の鳥	拝島堰の水鳥 カモを中心に	”
18	陸 の 鳥	滝山における野鳥	”
25	山の小鳥たち	高尾山の野鳥	”

(2) 青 年

青年学級（英会話）

生活の基礎的知識としての語学力を仲間づくりの中で協同しながら身につけていった。クラス運営やプログラム編成は、受講者と講師の自主的なものとして行った。

1. 期 間 前期 昭和53年 5月14日～昭和53年10月29日
後期 昭和53年11月12日～昭和54年 3月25日
毎週日曜日 午後7時30分～午後9時30分

全 40 回

2. 会 場 福生市公民館 第5集会室
3. 講 師 宮本長治氏（青年学級専属講師）
4. 参 加 者 40人×40回＝延1600人
5. 教 材 アメリカ口語教本“入門用”
6. 自主活動 バーベキュー、クリスマスパーティ

昭和54年 成人式及び成人のつどい

成人した人達を祝い励ますとともに、成人者にとって、成人式及び成人のつどいをひとつの画期点として、人生の意味を再確認する機会として実施した。

1. 主 催

福生市・福生市教育委員会・成人のつどい実行委員会

2. 開催日・会場

昭和54年1月15日（月）

福生市民会館大ホール、第4・5集会室

3. 内 容

- 1) 成人式典 AM10:30～AM11:00 大ホール

- (1) 開 式
(2) 主催者あいさつ（市長、教育委員長）
(3) 来賓祝辞 （市議会議長、都議）
(4) 閉 式

- 2) 成人のつどい AM11:10～PM3:00

- (1) 大ホール
○ 実行委員長挨拶
○ フォークソング

- 宝くじ抽選会
- 成人のつどい記念作文発表

(2) 第4・5集会室

- フォークダンスとゲーム
- フォークソング

各種模擬店

4. 対象者

昭和33年4月2日から昭和34年4月1日までに出生した608人。

5. 参加者

335人

6. 成人のつどい実行委員会

「成人のつどい」は、1) 成人者自身が成人することの意味を再確認・再認識し、それを皆のものにする。 2) 成人のつどいを自分達の手で作りに出すことによって、共通の活動への参加、連帯性の生まれる契機とする。 3) 地域社会の活動への参加により、地域を考える契機とする。を目的とし、新成人者全員に郵送した呼びかけで参加した8名の成人者で実行委員会を結成した。

	準備事項				準備事項		
11月19日(日)	第1回	成実委	成人委員会 の意義と 実行が 行	12月27日(水)	第12回	成実委	当日向け 詳細準備 活動 リハーサル ↓ 成人式及び成人のつどい当日
23日(木)	第2回	〃		1月5日(金)	第13回	〃	
26日(日)	第3回	〃		6日(土)	第14回	〃	
30日(木)	第4回	〃		7日(日)	第15回	〃	
12月3日(日)	第5回	〃		8日(月)	第16回	〃	
7日(木)	第6回	〃	成人のつどい 意義と企 画	10日(水)	第17回	〃	
10日(日)	第7回	〃		11日(木)	第18回	〃	
14日(木)	第8回	〃		12日(金)	第19回	〃	
17日(日)	第9回	〃		13日(土)	第20回	〃	
21日(木)	第10回	〃		14日(日)	第21回	〃	
24日(日)	第11回	〃		15日(月)	成人式及び成人のつどい当日		

若い市民の講座

(A) 障害者問題から生き方を考える。

障害者・健常者の参加各人の生い立ちや生き方をもとに、お互いが共同・協力して生きていける方向を考え、障害者、障害者をもつ親、施設職員及び青年の参加の中で以下のよう展開した。

回	月日	内 容	備 考
1	8/19	準備・打ち合わせ会	話し合い
2	8/26	参加者の自己紹介と動機について	話し合い
3	9/9	私の生い立ち I	Tさんの事例から
4	9/15	” II	Yさん(障害者)の事例
5	9/24	” III(養護学校・障害者の職業ほか)	”
6	9/30	障害者の生活を知るために(ある映画製作活動から)	製作者 田村浩太郎氏
7	10/7	重度身障・精薄施設職員として	奥村香世子(施設職員)
8	10/21	私の生いたちIV	Nさんの事例から
9	10/28	障害者をもつ親として	Yさんより事例
10	11/11	私の生いたちV	Tさんの事例
11	11/18	数馬の里(民間福祉施設を自発的に設置する会)	高野氏報告

期 間 8月19日(土) PM7:00～9:30から11月18日まで 全 回

会 場 福生市公民館及び福祉会館会議室

参 加 者 16人×11回＝176人

共 催 福生市青年団体連絡協議会

(B) レクリエーション初心者講習

若い人達へむけて、職場や地域、そして親しい友人の間で活かし、豊かな人間関係をつくり出せるよう以下のように実施した。

回	月日	内 容	備 考
1	3/9	オリエンテーション アイスブレーキング	指 導 中 森 章 一 (市内レク指導者)
2	/16	ゲーム(室内と屋外各種)	
3	/23	レク・ダンスとフォーク・ダンス№1	
4	/30	” ” №2	
5	4/6	つどいのもち方演習 キャンドルサービス	

期 間 3月9日(金)PM7:00～9:30から4月6日 全5回

会 場 福生市公民館

参 加 者 15人×5回＝75人

共 催 福生市青年団体連絡協議会

青年団体リーダー研修会

個々人が学習・文化活動を生活化することの意義を掴み、次年度、更に充実した活動を展開し得るようにするため、以下のように実施した。

1. 主 催 福生市公民館・青年団体連絡協議会

2. 対 象 福生市青年サークル参加者

3. 事前研修会

2月28日(水)PM8:00～ 青年団体リーダー研修会の意義

3月7日(水)PM8:00～ 分科会内容の検討

3月14日(水)PM8:00～ 最終確認

4. 研修会当日

(1) 日 時 昭和54年3月17日(土)～18日(日)

(2) 場 所 都立五日市青年の家

(3) 講 師 太田政男氏(大東文化大学)

(4) 参加グループ・人数

土筆の会 サークルゆうかり S. E. E. サークルななよん

福生吹奏楽愛好会 自然観察グループ サークルレオ FRC

成人グループ他

計25人

(5) 内 容 当日プログラム

3月17日

3月18日

PM5

9

0

AM8

9

12 PM1

3:30

五時より受付	・夕食 ・入浴 ・レクリエーション	各サークル 年間活動の 報告	消燈 起床	洗面 朝食	分散会 サークルと私	昼食	全体会 分散会発表と 講師まとめ	解 散
--------	-------------------------	----------------------	--------------	----------	---------------	----	------------------------	--------

(3) 婦 人

婦人学級 Aコース（生命の力とくらしの医療）

人間の基本行為である医（衣から医へ）・食・住の視点と、生活と地域につながる問題として設定し、①生命誕生の喜び、その重み、尊厳を見つめ直し、生きものとしての人間の摂理を考え、②自らの肉体管理は、自らの体質等の自覚によるが、あなたまかせになっていないか、③本来の生命力を、情報過多の中で、見失い、おののきの毎日になっていないか、④社会化された保健や医療がより生活性をともなった内容になっていくためには、という点から以下のように実施した。

S 53. 毎水曜 AM 10:00～12:00

回	月・日	主 題	内 容	備 考
1	6/7	オリエンテーション	学級の進め方・プログラム紹介・保育室の利用について etc	職員の説明及び話し合い
2	6/14	生命の誕生(妊娠・出産)	私の出産体験から準備・出産問題と医療及び母体における胎児の発達	山田美津子氏 (準備・出産協会)
3	6/21	妊娠・出産の実態	参加助産婦さんの実態報告と各自の出産体験の交換	話し合い
4	6/28	クスリの副作用Ⅰ	おとなのための健康を考える	田村豊幸氏 (日大薬理学教室)
5	7/5	都立福生保健所の活動	保健所活動の概要と私の保健婦活動について	前田保健所長&最上保健婦
6	7/12	中間整理	今までの整理とこれからくらしの中での健康と医療	話し合い
7	7/19	クスリの副作用Ⅱ	こどものための健康を考える	田村豊幸氏 (日大薬理学教室)

回	月・日	主 題	内 容	備 考
8	7/26	福生市の 医療・保健計画について	市の医・保計画の紹介 これまでの市の保健活動	影山愛子氏 (市健康管理係長)
9	8/16	精神衛生Ⅰ	真夏及び夏休み等のため2週お休み 患者との病院での諸活動 精神衛生概要と精神障害分類	野島 正氏 (海道病院看護師)
10	8/23	精神衛生Ⅱ	私達の 精神の健康とは何か	野島 正氏 問題提起と話し合い
11	9/6	ま と め	これまでのまとめ整理と今後の活動 にむけて	話し合い

期 間 6月7日(水)AM10:00～12:00より9月6日まで 全11回

会 場 福生市公民館

参 加 者 20人×11回＝220人

※ 尚、以後は“木の実会”として、親の目、母の目からくらしの医療として、生活の力をつけるため、自主学習活動を展開している。

婦人英会話教室

昭和50年度から、横田基地将校婦人クラブにより、日米親善の一環として、婦人英会話教室が実施され、本年はその4年目にあたる。

英会話習得と同時に、文化交流及び欧米社会の生活様式、とりわけ婦人の生活に係わる子供の教育や、社会性などを含めて、様々な交流の機会として実施した。

1 レギュラー・クラス(日常の英会話学習)

人員：6クラス(各18人×6)108人×30回＝3240人

期 間 昭和53年9月7日(木)より昭和54年5月24日 全30回

会 場 福生市公民館(各室)

2 将校婦人クラブ主催の交流事業

① 感謝祭パーティー

② ターキー・テイスト

③ クリスマス・パーティー

④ スクール・ツアー(ヨコタ・イースト・スクール)：アメリカ学校施設及び教育制度等の視察・見学

⑤ バレンタイン・パーティー ほか

※・指導者(アメリカ婦人) 12人(各クラス複数指導)

・コミュニティ・リレイション 責任者 ミセス ヤスコ・バーグヘッド

婦人学級 Bコース（料理の起源と食事の文化）

料理や食事が、いかに私達の体質や生活文化の基礎になっているかを植物学者と経済学者の目を通してとらえてみました。

回	月・日	内 容	備 考
1	10/7	植物 オリエンテーション — 食べること・生きること — 生物進化の歴史から	講師 宮岡一雄氏 (明大教授)
2	10/14	学者 — 人間のいのちを支えてきた植物たち — 人間のあゆみの中から	同 上
3	10/21	の 目 — 食生活の在り方と未来 — 社会環境と自然環境の変化から	同 上
4	10/28	経済 — 人類とたべものの文明 — ブッシュマンの生活事例からとりわけ食文明生態系の中での存在と適応	講師 殿村晋一氏 (専修大学助教授)
5	11/11	学者 — 日本の西と東 — 気候帯の違いから食文明と文化のちがいを 縄文・弥生から日本史の視野で	同 上
6	11/18	の 目 — 味覚の問題 — 料理体系の広がりや各国の様子から考える 料理・味覚の豊かさ(天国)から人口問題(地獄)へ	同 上

1. 期 間 10月7日(土) AM 10:00～12:00から11月18日まで 全6回
2. 会 場 福生市公民館
3. 参 加 者 18人×6＝108人

婦人英会話クラスリーダー連絡会

日米親善を趣旨に、文化交流団体としての性格を求め、自主的な組織化と自覚的なメッセージをもち得る方向で、以下のような研究を進めて来た。

回	月・日	内 容
1	10/5	①婦人英会話教室趣旨の確認 ②当教室の成立過程 ③これまでの実際の進め方点検
2	11/16	①集団レベルと個人レベルの交流 ②指導者2人方式を考える。
3	2/1	①将校婦人クラブからの報告 ②今後の英会話教室の方向を考える。
4	3/1	親善交流の相手方を理解するために(将校婦人クラブの組織・費用・活動内容=全くの自発的団体)
5	4/5	交流・親善の対等な主体とはなにか(組織面・意識や企画の側面から)
6	5/16	①来年度にむけて ②試行の組織 ③試行の内容 ④市民スピーチコンテストについて

期 間 婦人英会話開講期間(アメリカの学期)内の月例 基本的に月の第一週木曜 全6回

会 場 福生市公民館

参加者 12人(6クラス各代表2人づつ)×6回=72人

※ 尚、来年度は9月より開講となるが、自主化の試行として1年間をこれまでどおり公民館主催事業として実施し、自主文化交流会の中核として今後も月例で実施するものとする。

市民大学講座(婦人の講座)

婦人の各年代や様々な生活状況での課題をもとに、生きる主体として、自らの生き方(自立を目標に)を、総合的な視野で考え、本年は健康を視点に生きる方向を考える機会とした。

回	月・日	内 容	備 考
1	2/17	オリエンテーション、プログラム検討、確認	話し合い
2	2/24	出産から更年期について	山田美津子(準備・出産協会)
3	3/3	出産と自然分娩(映写会含む)	三森礼子(助産婦)
4	3/10	産むことと私の生き方をめぐる諸問題	話し合い
5	3/17	ヨガ講習会Ⅰ	指導:北村敏子
6	3/24	ヨガ講習会Ⅱ	〃
7	3/31	まとめとして(講座を通して思うこと)	話し合い

期 間 2月17日(土)PM1:30~4:00から3月31日まで 全 7 回

会 場 福生市公民館及び扶桑会館

参加者 40人×7回＝280人

※ 尚、一部の希望者が責任者となり、再募集による女性ヨガサークルを自主的な活動として実施している。

保育懇談会

公民館保育室における幼児の発達を考えるために、月例により保育懇談会を実施した。

ここでは、親が教育の主体として、子供の発達保障にむけて、どのような役割を果たすことが望ましいかを考える方向で、母親・保育者・館の三者による検討・研究を以下のように展開した。

回	年/月	内 容	備 考
1	53/4	保育指導方針№2（異年齢集団）保育室希望への回答	（三者 話し合い）
2	/5	保育指導方針№3・共同保育について・保育室の現況	（ ” ）
3	/6	保育室の在り方№1（共同保育と学習権）	（ ” ）
4	/7	保育室の在り方№2（保育者と母親の交換）	（ ” ）
5	/9	幼児の発達保障を考える。	大堀容子（ひこばえ幼稚園）
6	/10	保育室の在り方№3（保育者と母親の交換）	（三者 話し合い）
7	/11	保育懇の運営主体 — 母親の手による運営 —	（ ” ）
8	54/2	運営主体としての役割・保育室での子供の様子ほか	（ ” ）
9	/3	子供の発達段階・地区の遊び集団への参加	（ ” ）

1. 期 間 （月例）年間 全9回 AM10:00～12:00

2. 会 場 福生市公民館

3. 参加者 20人×9回＝180人

(4) 成人・一般

文化団体リーダー研修会

地域文化、趣味活動の有効な活動の指針と、市民文化教室のあり方の方向づけについて実施した。

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 期 間 6月12日から7月3日まで 全4回 午後7時30分から9時30分まで
3. 会 場 公民館第5集会室
4. 講 師 岡 本 包 治 氏（立教大学教授）
5. 参 加 者 延 1 1 0 人

プ ロ グ ラ ム

回	月・日	内 容	講 師 ・ 方 法
1	6/12	趣味、サークルの意義 地域文化とは何か	岡 本 包 治
2	6/19	リーダーの役割、目的に関する条件	岡 本 包 治
3	6/26	福生市文化連盟について、16ミリ映写（福生わか町）	話 し 合 い
4	7/3	53年度市民文化教室の方向づけについて	話 し 合 い

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。（生活への還元・グループへの参加・新しいグループの創造）
 - (1) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大（参加者や活動面）に役立てる。
 - (2) 公 民 館 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。

昭和53年度 市 民 文 化 教 室 実 施 状 況

文化連盟
共催(14)

コ ー ス	月 日	指 導 者	参加人員
編物手芸	7月6日(木)から全10回	編物手芸会 堂 田 きよ子	50人
日本人形	7月14日(金) "	酒井人形教室 酒 井 虹 晨	23
俳 句	8月28日(月) "	霧の音俳句会 来住野 臥 丘	19
盆 裁	7月15日(土) "	福生盆栽同好会 岩 波 実	15
詩 吟	8月9日(水) "	岳心流福生教室 岡 野 心 雙 青 柳 心 寿	14

コ ー ス	月 日	指 導 者	参加人員
写 真	7月23日(日)から全10回	小 林 栄 蔵	3人
茶 道	8月21日(月) "	茶 道 会 麻 生 宗 秋	12
民 謡	8月21日(月) "	福 生 民 謡 会 白 瀬 春 駒	24
油絵(日曜)	7月9日(日) "	栗 原 一 郎	21
油絵(金曜)	7月14日(金) "	成 川 治	26
民 踊	8月10日(木) "	日 本 舞 踊 連 盟 花 柳 千 衛 里 熊 坂 光 世	20
書 道	8月18日(金) "	内 田 閑 堂	29
社交ダンス	9月2日(土) "	小 宮 吉 春	53
短 歌	10月5日(木) "	八木下 慎 治	19

公 民 館
主 管 (3)

コ ー ス	月 日	指 導 者	参加人員
木 彫	6月14日(水)から全15回	合 津 真 治	34人
スクリーン印刷	7月8日(土) "	伴 内 伊三郎	11
8ミリ映画製作	8月13日(日)から全17回	佐々木 堅 次	8

市 民 大 学 講 座 (経 済) “住宅・融資から経済動向を考える”

生活問題を基本的に規定している経済を、系統学習を通して捉えていこうとするものだが、生活実感や生活実務との中で、実生活に接近した住宅の問題から以下のように展開した。尚、プログラムは、参加者・講師・職員の三者の打合せにより編成した。

第 I 期

回	月・日	内 容	備 考
1	6/9	準 自己紹介及び各自の内容への希望	話しあい
2	6/16	備 プログラム内容編成	チューター 殿村晋一氏 (専修大学助教授)
3	6/23	会 福生の教育・文化とコミュニティ(住環境として)	→ 職 員

回	月・日	内 容	備 考
4	6/30	土地・家屋の実態と契約等の実際について	上条孝夫氏（市内不動産）
5	7/7	住宅関係融資と貸付条件	池田良徳氏（市内金融機関）
6	7/14	住環境としての都市整備について	関口課長（市都市計画）
7	7/21	まとめ ・前回のまとめと今後の展開	話し合いと講義
8	7/28	準 備 ・土地利用の施策あれこれ	殿村晋一氏

第 II 期

9	8/4	住宅と都市の歴史について	殿村晋一氏（専修大助教授）
10	8/11	住宅と都市生活条件を整える	佐藤哲郎氏（都立立川短大教授）
11	8/18	景気刺激策と金融について	佐羽菊次氏（ ” ）
12	8/25	都市もんだいと社会資本	佐藤哲郎氏（ ” ）
13	9/1	都市生活条件へむけての財政・金融	佐羽菊次氏（ ” ）
14	9/8	これまでの整理と今後の共同学習に向けて	

こうした学習の流れの中で、第Ⅰ期にふれた、住環境の問題から、市民の教育・文化及び市民の連帯（コミュニティ）の視点で、私達の“まちづくり”に係わる学習会を継続することになりました。

第 III 期

15	9/22	①この学習の場の性格とすすめ方②教育・文化活動の動向ほか	レポート 公民館職員
16	9/29	参加者各々の生活課題と地域（Ⅰ）	話し合い
17	10/6	”（Ⅱ）	”
18	10/13	体育活動（条件・内容）コミュニティ	”
19	10/27	老後の生き方と地域	Kさんレポート
20	11/10	年金と老後	Mさんレポート

1. 期 間 6月9日(金) PM7:30～9:30から11月10日まで 全20回
2. 会 場 福生市公民館
3. 参 加 者 I期 12人×8回=96
II期 15人×6回=90
III期 10人×6回=60 計 246人

市民大学講座(音楽)

音楽は、日常生活の中で切離せなくなっているが、音楽に対する姿勢はあくまで受け身である。そこで自己を表現する媒体として音楽を考え、基礎から簡単な作曲・編曲ができるよう次のように市民大学講座を開講した。

1. 期 間 昭和53年9月2日(土)～昭和54年3月31日(土) 全25回
2. 会 場 公民館・視聴覚室及び音楽室
3. 講 師 吉 田 稔氏(自衛隊音楽学校教授)
4. 参 加 者 延200人
5. そ の 他 テキスト ○和声法とその応用(ヤマハ音楽振興会)
○コード進行法(ヤマハ音楽振興会)
6. プログラム

回 数	テ - マ	内 容
1 ～ 5回	基 礎	楽 典 の 知 識 と 基 礎 理 論
6 ～ 15回	〃	和 声 と コ ー ド 進 行
16 ～ 20回	応 用	課 題 に よ る 和 声 と コ ー ド 進 行 の 応 用
21 ～ 25回	制 作	簡 単 な 作 曲 と そ の 編 曲 合 評 会

市民大学(万葉集を読む)

古典の万葉集を通して、古典の世界を知ると同時に古代の民家のくらしや生活を理解し、古代日本人の考え方などを明らかにしていく。

1. 期 間 昭和53年10月19日から毎木曜日 全 7 回
2. 講 師 高 野 正 美 氏(都立立川短大助教授)

月 日	テ - マ	内 容
10. 19	万葉集の成立過程	万葉集の成立過程とその歴史的背景をさぐりその文学的位置をさぐる。時代区分、万葉集の構造等
26	初期万葉集＝額田王とその周辺	万葉集初期の作品を額田王とその周辺を考えて行きます。
11. 9	白鳳万葉 人麿呂の時代	持続に始まり持続崩御とともに終わった人麿呂の作歌を通して、人麿呂の時代を通して白鳳を。
16	平城万葉 赤人の周辺	聖武朝の宮廷歌人、赤人、黒人の作品を通して。
22	平城万葉 憶良・旅人とその周辺	憶良、旅人の作品を中心に
30	天平万葉 大伴家持	万葉集最後の歌人大伴家持とその周辺から天平万葉の特色を明らかに
12. 7	東歌 防人歌	作者不詳という防人や東人の歌がある。万葉にうたわれた農民の心をさぐります。

子どもの遊びを考える講座

子どもの遊びと文化を考えながら、地域の子どもの組織の問題を考えていく講座。PTA、子ども会担当者、青少協等役員、あるいは子ども会等に関心のある大人に対する地域子ども会の理論講座。

1. 期 間 6月29日 午後7時30分から9時30分まで 全 7 回
2. 参 加 者 162人

月日	テ - マ	内 容	講 師
6. 29	野外活動の方法	夏の活動を豊かにするために野外活動のとりえ方、すすめ方	草 一 平 (全日本レクリエーション リーダー会議常任理事)
7. 6	今日の子どものめぐる状況	遊べない子どもがふえているといわれているが、子どもの遊びや文化の現状を考えながら今の子どもたちの現状を明らかにする。	上 田 融 (ジャーナリスト)
7. 13	子どもの発達とあそび	子どもにとって遊びがどんな役割をもっているのか。	酒 包 一 雄 (教育研究所)
7. 16	野外活動	川井キャンプ場でデーキャンプ実習	
7. 20	子どもの自主的組織をめざして	夏休みに子どもたちの生き生きした活動を創り出すために羽村の青空学校の経験に学ぶ	大 崎 玄 (教 員)
7. 27	地域子ども会の指導をめぐって	子どもたちが主人公になる子ども会運営は	溝 渕 幸太郎

子どもの教育と文化を考える講座

今子どもたちのおかれている現状は、「発達にかかわる危機」の問題としてするどくとらえられている。そのため子どもの教育や文化の問題で、いま何が課題かを明らかにし、その情報を提供する。特にマスコミ文化と子どもの成長にかかわるテレビ文化をとりあげた。

1. 期 間 11月29日 午前10時から12時迄 全 3 回
2. 参 加 者 76人

月 日	テ - マ	内 容	講 師
11/ 29	子どもの成長とテレビの影響を考える	毎日子どもの見ているテレビがその成長に与えるもの	片岡 輝 (児童文学者)
12/ 6	子どものテレビは変えられるか	良い番組を作っていくために市民は何をすれば良いかをさぐり、マスコミのあり方をさぐる	ジョン オルソン (テレビ研究者)
12/ 13	子どもの集団と遊び	テレビづけの子どもたちが、どう受動的な子どもから能動的な子どもに育って行くか、子供集団の遊びと文化を考えなおす。	白井 慎 (法大教授)

学校教育を考える講座

学校教育は今日の父母にとって関心を引くものはない。そして現実におちこぼれ、非行等の問題でさまざまな情報が流される。ここでは今日の教育の問題を労力の問題を通して考える。

1. 期 間 3月2日 午前10時から12時迄 全 5 回
2. 参 加 者 75人

月 日	内 容	講 師
3. 2	かかえている問題を出しあおう 第1回作文	白井 慎 (法大教授)
9	学校教育の問題はどこからきているのか I	"
16	学校で子どもたちはどう育つのか — 学力をめぐって	"
23	親と子にとって学校とは 第2回作文	"
30	日本の学校教育と世界	清川 輝 (NHK教育テレビ)

アコーディオン入門講座

コミュニティー・レクリエーションとして、今後市民の様々な集いに係わり、人と人との交わり、共感し合いながら生きることを、地域に定着することを目標に、レクリエーションリーダー養成をねらいに実施した。

回	月 日	内 容		備 考
1	3/10	オリエンテーション（自己紹介・動機など）		指導 井上忠志氏 （市内レク指導者）
2	3/24	Fingerling 運 指 （ ペ ロ ー イ ン グ ）	練 № 1 ～ № 5	
3	3/31	——5 指 平均運動——	習 № 6 ～ №12	
4	4/17		曲 № 13 ～ №16	
5	4/14	ベ ー ス 部 練 習	ボタン配置図と配置を指で覚える	
6	4/21			
7	4/28		各リズムの練習	

1. 期 間 3月10(土)PM7:00～9:30から4月28日まで 全 7 回

2. 会 場 福生市公民館(音楽室) 扶桑会館

3. 参 加 者 15人×7回＝105人

※ 尚、技術習得が中心課題のため、以後自主的に継続練習となり、発表の機会及び地区の子供集団への係わりなど思案中。

視聴覚リーダー研修会

視聴覚教育の拡充を目指し、以下のように実施した。

なお、昭和43年からはじめられたこの事業で修了証交付者は、累計381名となった。

1. 日程と内容

月 日	7	8	9	10
7月5日(水)	開講式 映写機の機構と操作		実 技 ①	
6日(木)	実 技 ②		実 技 ③	
7日(金)	教材・教具の 利用について	実 技 ④		実 技 ⑤
8日(土)	実 技 ⑥	実 技 ⑦		実 技 ⑧
	10	11	12	1
9日(日)	視聴覚教育について 映画フィルム・保守管理		個 別 操 作 閉 講 式	2
				3

2. 会 場 福生市公民館 視聴覚室

3. 講 師 西 野 光 芳 氏 (都立立川社会教育会館)他

4. 参 加 者 33人

5. 修了者による映画会の実施

10月 8日(日)

11月12日(日)

自然観察会

福生における緑は近年ますます減少してきている。いまや自然は環境の問題として、人間が生きていくために必要な空間として生命とのかかわりでとらえられてきている。こうした自然を科学として見て行く力がいま要求されている。この自然観察会では、自然を科学的にみつめる力をやしなうと同時に自然保護に関する初歩的な認識を深めることを目的とし、つぎのように実施した。

1. 月 日 10月8日 午前9時30分から午後5時まで

2. テーマ 多摩川を歩く 柳山公園から羽村せき上まで、秋の植物

3. 講 師 宮 岡 一 雄 氏

企画リクエストサークル

当市民会館主催の芸術・文化鑑賞事業に対する、市民参加の企画・リクエストの機会とし、あわせて当市における市民の芸術・文化活動の定着にむけて、以下のように実施した。

回	月日	内 容	備 考
1	11/19	①企画リクエストサークルとは ②市民会館主催の“もよおし”考え方 ③曲目リクエスト	説明及び討議
2	11/26	ボニー&市民コーラスジョイントコンサートについて	テープコンサート及び合評
3	12/3	会館の施設・設備の見学と研究	職員の案内等
4	12/10	芥川&新響コンサートから（今後の協力可能性について）	テープコンサート 及び松本氏（新響理事長）
5	1/7	ニューイヤーコンサートにむけて（日本紹介フィルムと当日懇談会にむけて）	フィルム上映と打合せ
6	1/14	日本フィル “ふっさニューイヤーコンサート” 公演後の楽員との懇談会	公 演 日 （懇談参加者35人）
7	1/21	公演をふりかえって これからの企画リクエストサークル	話し合い

1. 期 間 11月19日(日)以後毎日曜 AM10:00~12:00 全 7 回

2. 会 場 福生市公民館（視聴覚室）

3. 参 加 者 20×6回+35人=155人

※ 以後は、市民会館主催のもよおしや、市民の芸術・文化活動が地域に定着する方向を目標に、月例の企画リクエストサークルを実施している。

(5) 市民会館事業

昭和53年度 市民会館主催事業

1. 目 的

会館は、市の行う文化行政と教育委員会が行う社会教育（教育・学習・文化諸活動）の総和として都市づくりの究極とも言える豊かな人間性と文化を育てるまち福生市をみざしている。このことは、市民会館が一般的な貸ホールであることを越えて、積極的に市民文化向上への施策を展開してゆかねばならない。

その一環として市民会館主催事業は、その充実した施設を市民に還元し、市民に愛される市民会館になると同時に、芸術・文化・娯楽の鑑賞と創造の契機として市民の生活文化向上

が地域文化の高まりにつながることを目的に開催するものである。

2. 今年度の目標

今年度、開館2年目になり、市民会館主催事業も、会館の有効利用、内容の充実とより多くの市民の参加を目標に年間9事業を予定している。(小ホール5、大ホール4) 本年は新たに小ホールにおいて映画会を行う。

昨年度、主催事業の経験から、宣伝期間の短かさ、または宣伝方法、当日の入場方法、観客のマナーなどの問題点を改善してゆくことが必要で、このことも含めて今年度の目標とする。

(1) 市民名画劇場「風の又三郎」

- ① 日 時 昭和53年5月3日 水曜日 午前10時・午後2時 2回
- ② 会 場 福生市民会館 小ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般
- ⑤ 入場料 無 料
- ⑥ 入場者 175名(午前85人、午後90人)

(2) 市民名画劇場「禁じられた遊び」

- ① 日 時 昭和53年8月20日 日曜日 午前10時・午後2時 2回
- ② 会 場 福生市民会館 小ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般
- ⑤ 入場料 無 料
- ⑥ 入場者 295人(午前135人、午後160人)

(3) 市民名画劇場「いつか来た道」

- ① 日 時 昭和53年10月1日 日曜日 午前10時・午後2時 2回
- ② 会 場 福生市民会館 小ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対象者 市民一般
- ⑤ 入場料 無 料
- ⑥ 入場者 90名(午前40人、午後50人)

(4) 東京ヴィヴァルディ合奏団・東京女声アンサンブルジョイントコンサート

- ① 内 容 I 部 東京ヴィヴァルディ合奏団
 「四季」作品 8～1～4 アントニオ・ヴィヴァルディ
 II 部 東京女声アンサンブル
 ○ ゆりかご ○ ペチカ ○ 赤いサラファン ○ すいかとお母さん
 ○ アレルヤ
 東京ヴィヴァルディ合奏団・東京女声アンサンブル
 ○ ミッシェル ○ イエスタディ
 東京ヴィヴァルディ合奏団
 「日本の四季」より
 ○ 花 ○ さくらさくら ○ 春が来た
- ② 指 揮 外 山 滋
 司 会 岩 尾 良 二
- ③ 公演団体 東京ヴィヴァルディ合奏団・東京女声アンサンブル
- ④ 日 時 昭和 53 年 10 月 22 日 日曜日 午後 2 時開演
- ⑤ 会 場 福生市民会館 大ホール
- ⑥ 主催者 福生市民会館
- ⑦ 対 象 市民一般・近隣地区（小学校就学前の幼児は入場不可）
- ⑧ 入場料 小人（小・中学生）800 円 大人 1,400 円
- ⑨ 入場者 券売捌数 小人 83 大人 198 計 281
 実入場者 小人 63 大人 173 計 236

(5) ふっさニューイヤーコンサート「日本フィルハーモニックオーケストラ演奏会」

- ① 内 容 I 部 ワーグナー作曲「ニュルンベルグの名歌手」前奏曲
 モーツァルト作曲 交響曲第 40 番 ト短調
 II 部 ドヴォルザーク作曲 交響曲第 9 番 ホ短調「新世界より」
- ② 指 揮 渡 辺 暁 雄
- ③ 公演団体 日本フィルハーモニックオーケストラ
- ④ 日 時 昭和 54 年 1 月 14 日 日曜日 午後 2 時開演
- ⑤ 会 場 福生市民会館 大ホール
- ⑥ 主催者 福生市民会館
- ⑦ 対 象 市民一般・近隣地区（小学校就学前の幼児は入場不可）

- ⑧ 入場料 座席指定 小人(小・中・高生) 1,700円 大人 2,300円
自由席 小人 1,200円 大人 1,800円
- ⑨ 入場者 券売捌数 小人 274 大人 527 計 801
実入場者 小人 256 大人 507 計 763

(6) 角笛シルエット劇場

- ① 内 容 影絵劇
I部 「よぶこどり」
II部 「つのぶえのうた」
III部 「もも太郎」
- ② 公演団体 劇団 角笛
- ③ 日 時 昭和54年3月29日 木曜日 午後1時30分開演
- ④ 会 場 福生市民会館 大ホール
- ⑤ 主催者 福生市民会館
- ⑥ 対 象 市民一般(親子対象)
- ⑦ 入場料 小人(3才~小学生) 400円 大人 500円
- ⑧ 入場者 券売捌数 小人 292 大人 146 計 438
実入場者 小人 280 大人 142 計 422